



### 1. 総括

EC センターでは、電機・電子業界における企業間の全業務プロセスを電子的にグローバル且つシームレスに繋ぎ、相互の経営効率向上を目指した業界標準・ECALGA ( Electronic Commerce Alliance for Global business Activity ) の啓蒙・普及活動を行っている。

EC センターの活動も20年を経過し、電機・電子業界内の国内の EDI 化はかなり浸透してきたと言える。今後の重要課題は業際化、国際化の推進である。

■ <http://ec.jeita.or.jp/jp/modules/contents01/index.php?id=3>

### 2. 重点取り組みテーマ

#### (1) 業際化への対応

EC センターでは、平成23年度の事業方針として「業際活動」を重視しており、次世代 EDI 推進協議会 (JEDIC) のビジネスインフラ会議への参画をはじめ、日本自動車工業会 (JAMA) / 日本自動車部品工業会 (JAPIA)、石油化学工業協会 (CEDI) からの連携要請にも積極的に協力した。これら「業際活動」は経済産業省の意向もあり、今後、益々連携要請が増えることになると想定される。EC センターとしての業際活動方針や体制を明確にして関係他業界 / 企業と協調連携していく必要から、「業際協調 TF」を新設して活動を行っている。主な活動は以下のとおり。

- ①次世代 EDI 推進協議会 (JEDIC) への参画
  - ・業界横断 EDI 仕様の検討、普及促進に向けた取組みへの支援
  - ・ JEITA / ECALGA 標準に照らしたビジネスモデルの摺り合わせ
- ②日本自動車工業会 (JAMA) / 日本自動車部品工業会 (JAPIA) との協調連携

- ・情報交換要請への対応 (通信プロトコル等)
  - ・ビジネスプロセスの調査、連携の模索
- ③ JEITA 業際対応グランドデザインの策定
- ・業界横断 EDI 仕様 (JEDIC) の適用範囲、適用性の見極め
  - ・業際 EDI の立上げ方針、活動計画、等
- 2011年度は、特に JEITA と関係の深い自動車業界との業際 EDI (SCM 取引) の実用化を推進する。この成果を活用して、幅広い業界で活用できる業界横断 EDI 仕様を策定する。

#### (2) 国際化への対応

- ①国際標準に適合したビジネスインフラ基盤の整備
  - ・次世代 EDI 推進協議会 (JEDIC) のビジネスインフラ推進会議に参画し、ECALGA のシステム基盤の国際標準への適合化推進を図った。
- ②国際標準化団体対応
  - ・EDA 標準について、米 EIA / IBIS フォーラムと連携し日米両国で IBIS サミット会議を開催した。  
■ <http://ec.jeita.or.jp/jp/modules/eguide/event.php?eid=20>
- ③国際標準化機関対応
  - ・ECALS 辞書の部品分類について、IEC (国際電気標準会議) へ提案を行った。

#### (3) ECALGA 実用化の促進

- ①エンジニアリングチェーン
  - ・EDA モデルの品質向上の一環として、Web サイトに一般公開した IBIS Quality Framework の普及促進に努めた。  
■ <http://ec.jeita.or.jp/ibis/index.html>
  - ・業界全体の伝送線路シミュレーション

技術のレベルアップを狙い、「SI シミュレーション・モデル解説書」を発行した。

(2011年11月21日)

■ <http://ec.jeita.or.jp/jp/modules/news/article.php?storyid=71>

#### ② サプライチェーン

- ・ 会員企業のグローバル化に対応して、正規標準化した海外通常取引モデルの普及促進を図ったほか、英語版と中国版を作成した。
- ・ ECALGA ユーザ企業個々が、自社環境にあった EDI 取引のビジネスモデルを組み立てるために参考となるビジネスガイド集をとりまとめ、Web サイトに会員公開した。

#### (4) 中堅・中小企業への対応

中堅・中小企業を含めて EDI が業界内に無理なく普及していくための施策として、以下の事業を行っている。

- ・ 「Web - EDI 認定事業」(Web - EDI ガイドライン準拠、あるいは適合) の推進。

■ <http://ec.jeita.or.jp/jp/modules/news/article.php?storyid=73>

- ・ ASP 間接続における実装上及び運用上の課題を解決するためのガイドライン「ASP 間運用標準ガイドライン」(ebXML) \_Version2.0 を発行した。(2012年3月5日)

■ <http://ec.jeita.or.jp/jp/modules/news/article.php?storyid=78>

- ・ 中小企業でもシステムを意識することなく、容易に通信が可能な「JEITA 共通クライアント」Ver2.1 を一般公開した。(2012年2月1日)

■ [http://ec.jeita.or.jp/kyoutuu\\_client/edi\\_client.html](http://ec.jeita.or.jp/kyoutuu_client/edi_client.html)

#### (5) 環境情報流通への対応

REACH (化学物質の登録、評価認可及び制限に関する規則) 等の各種規制に対応して、製品含有化学物質の適切な管理および円滑な情報の開示・伝達が必要となる。

EC センターとしては円滑な環境情報の開示・伝達を促進するための標準化に注力し、異業種が参画している「アーティクルマネジメント推進協議会 (JAMP)」と連携し、以下の事業を推進した。

- ① JAMP\_AIS 仕様改訂 (Ver4.0) に伴う環境辞書・スキーマの改訂
- ② JEITA\_AIS 作成支援ツールの改訂と活用促進。

■ [http://ec.jeita.or.jp/jeita\\_ais/index.html](http://ec.jeita.or.jp/jeita_ais/index.html)

#### (6) B to B 情報交換の実用化促進

近年、企業間での環境情報や技術情報交換のニーズが高まってきていることから、実用シーンを想定して、環境情報及び ECALS データの B to B 情報交換の実証実験を行った。

実証実験の課題や要望への対応策について協議し、エンジニアリングチェーン (ECM) のビジネスプロセスの見直しを行い、新たな B to B 情報交換の新標準を策定した。

ECM 新標準は、用途別であったビジネスドキュメントをシンプルに一元化し、複数種類のファイルを添付可能とした。

さらに、XML 形式に加えて新たに CII 形式に適用することなど、大幅な改定を行った。

ECM 新標準の策定は、利用者が容易に導入できることを考慮し、より簡便で利便性の高い標準を目指したものである。

また、以下の通り、B to B 情報交換の実用化促進を支援する各種ツール類の開発を行った。

- ・XML メッセージ作成支援ツール
- ・XML / CII 相互変換ツール
- ・ECALS データ作成支援ツール  
(2012年3月28日 一般公開)

■ [http://ec.jeita.or.jp/ecals\\_dcat/index.html](http://ec.jeita.or.jp/ecals_dcat/index.html)

### 3. まとめ (経営効率向上への寄与)

EC センターは、ECALGA 標準の健全性を担保し、SCM、ECM などの業界内情報連携のほか、業界横断情報連携、グローバル情報連携の2つの観点を含め、1 ASP 接続で EDI を実現する共通の情報技術基盤の確立を目標としている。

電機・電子業界の経営効率向上に寄与できるよう、鋭意努力する所存である。

# JEITA REPORT vol.01 Activity Report